

第 34 回 燃料デブリ取り出し専門委員会 議事要旨

日 時：令和 3 年 3 月 19 日（金） 13：00～15：00

場 所：原子力損害賠償・廃炉等支援機構 Web 会議システム

1. 2 月 13 日地震時の状況について

東京電力から、2 月 13 日地震時の状況 及び 1・3 号機 PCV 水位低下に関わる対応について説明した。専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 今回の地震によって発生したタンクの滑動や PCV 水位低下等の事象に対する検討を深め、今後の対応に活かしていくことが重要である。
- 3 号機地震計の故障事例を踏まえ、安全面だけでなく当該設備に求められる機能を考慮して品質保証計画に反映するとともに、信頼性を担保するため、品質保証計画の着実な履行に努めるべきである。

2. 東電エンジニアリング状況について

東京電力から、PCV 内部調査に向けた進捗状況について説明した。

専門委員からの主な意見は以下のとおり。

- 1 号機 PCV 内部調査におけるダストモニタリングを通して、測定点や作業空間等を留意してデータを整理し、安全管理に役立てることが望ましい。
- 2 号機の試験的取り出し装置については、地震による影響についても十分留意した対策を講じておくことが重要である。

3. 取り出し規模の更なる拡大について

東京電力と NDF からそれぞれ取り出し規模の更なる拡大について説明した。

- 工法の検討にあたっては様々なアプローチが考えられるが、現状を十分に把握できていないことを踏まえて検討を深めていくことが重要である。

4. 遠隔装置保守及び統合管理のための支援（PCV 内連続監視）技術の開発について

NDF から遠隔装置保守及び統合管理のための支援（PCV 内連続監視）技術の開発について説明した。

- 遠隔装置を戦略的に開発し運用していくための支援技術の開発は重要である。効率的な開発とするため、ヒューマンインターフェイスの標準化等の周辺技術にも留意して議論を深めることが望まれる。

以上